



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園 緒方中学校 学校だより

青雲の大志

令和6年7月19日

NO.50 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

1学期終業式 式辞

カムチャッカの若者が
きりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は
朝もやの中でバスを待っている
ニューヨークの少女が
微笑みながら寝がえりをうつとき
ローマの少年は
柱頭を染める朝陽にウインクする
この地球では
いつもどこかで朝がはじまっている

ぼくらは朝をリレーするのだ
経度から経度へと
そうしていれば交替で地球を守る
眠る前のひととき耳を澄ますと
どこか遠くで目覚まし時計のベルが鳴ってる
それはあなたの送った朝を
誰かがしっかりと受け止めた証拠なのだ

平和の祭典と呼ばれるオリンピックですが、内戦状態の国から参加する選手もいます。例えば、多くの民間人、特に子どもの人権と命を脅かしているイスラエルもIOCは参加を認めています。ウクライナ侵攻が継続している中、ロシアとベラルーシは、国としての参加が認められていません。IOCが、中立な個人として認めた選手、30名程度が参加する予定です。が、その選手たちも開会式での選手団入場はしません。スポーツも政治や国際情勢とは無関係ではられないのです。

ツバルという国を聞いたことがありますか。地球温暖化による海面上昇により約100年後には消滅するかもしれないと言われている国です。そのツバルも選手団を派遣します。

開会式の選手団入場は、実は、SDGs17の目標達成の切実さを実感させられる場面でもあるのです。



このような中、パリオリンピックは、男女の選手の数が、それぞれ5250人。歴史上初めて男女の数が1対1になりました。ちなみに100年前のパリオリンピックの女子選手は全体の4%でした。アフガニスタンのように女性の参加を認めず、教育を受ける権利など、人権を著しく脅かしている国も存在しますが、選手の男女比が1対1になったことに、ジェンダー平等の実現に向けた確かな一歩を感じることがができます。

SDGsの目標達成は2030年。あと6年。達成はおそらく先送りになります。そうすると、達成に向けた取組を担う中心は皆さん方の世代となります。そして、申し訳ないことですが、達成できなかった場合のツケを払うのは、間違いなく皆さん方の世代です。

7年生の教室前の掲示板に貼っている、この詩、谷川俊太郎さんの「朝のリレー」は、地球を共同体ととらえ、特に皆さん方のような少年少女、青年が連帯して、人権や平和、自然環境などを守り、生きることの大切さを歌っています。

7月26日にパリオリンピックの開会式が行われます。日本時間では27日の午前2時30分開始です。真夜中です。パリと日本の時差は8時間です。ただ、パリはこの時期、サマータイムが導入されているので、時差は7時間となります。オリンピックの時期は、日本の方が7時間進んでいることとなります。ということは、パリの中学生が眠りにつく頃、私たちの目覚ましアラームが鳴っているということです。まさに朝のリレーです。

オリンピックに参加する国や地域数は207の予定です。地域とは、たとえば香港。中国とは別の選手団として出場します。難民選手団といって紛争や迫害によって祖国を離れた難民アスリートで構成される団体も含まれています。

皆さんに夜更かしは勧めません。ライブでなくてもかまわないので、選手団の入場の場面は是非、見てほしいと思います。機能的なユニホーム姿や国旗の色を意識したスタイリッシュなスーツ、美しい民族衣装などが見られます。中には耳にしたこともないような小国や地域の選手団も登場します。地球上の様々な人種や民族、様々な立場の人が一堂に会していることを実感できる数少ない場面です。

今、皆さんはそれぞれに、勉強のこと、進路のこと、友だち関係、家族との関係、部活動のこと、自分の健康のことなど様々な悩みや不安を抱えていることでしょう。すべてがうまくいっている人なんて多くはいないと思います。親とぶつかったり、自信喪失で落ち込んだりしている人もいるでしょう。その時々でしっかり考え、悩んでこそ成長するものです。が、一方で、顔を上げ、遠くを広く見る目をもって、持続可能な社会に向けて自分は何ができるか、どのような貢献をしたいのか、若者らしく考えることも期待しています。

皆さんがこれから生きる社会は、自分の身の回りだけで完結する社会ではありません。緒方学園の校訓である「自立・敬愛・創造」、自分の考えをもって、互いを尊重し合い、新しい価値を創造していくという姿勢が、非常に重要になる時代であり、社会です。小さなことにこだわりすぎず「遠くを広く見る目」を意識して夏休みを過ごしてください。

まず、自分の命をかけたがえのないものとして、大事にすること。そして、危機に直面してもへこたれない心と体の健康のために、規則正しい生活をする、身体を鍛えること。新たな問題に直面したときもひるまないために、教科等の勉強や読書で考える基礎力を養うこと。夏は平和や人権について考えるチャンスがたくさんあります。未来を担う一人として自分なりにじっくり考えてみることも意識してください。

この夏の過ごし方があなたの未来だけでなく、多くの人々の未来を切り拓く力にもなることを確認し、式辞とします。